

# 留学を通じて

菊池 幸太郎

1. 二つの留学
2. 山西省の留学の良い点、悪い点
3. まとめ
4. 今月の中華料理

まず初めに、このような機会を与えてくれた埼玉県、山西省また関係者の方々に感謝申し上げます。今回、自分は8月下旬から4月上旬までの約7か月間、中国山西省に留学させてもらいました。この留学を通じて「中国留学」が自分にどのような影響を与えたのか、またどのようなことを発信していきたいかを書きたいと思います。

皆さんは、留学の主な目的とは何でしょうか？おそらくたくさんの目的が挙がると思います。

- ・言語能力の向上（ネイティブの発音で学習）
- ・現地での文化体験（食文化や生活方式など）
- ・現地の友達を作る（学習言語のため）

など留学の目的は多岐にわたると思いますが、主な目的はやはり語学習得だと思います。留学に関しての考えは人それぞれあると思うので、ここからは自分の経験をもとに自分の考えを書きたいと思います。

## 1、二つの留学の比較

実は自分は2016年度にハンガリーというヨーロッパの国に1年ほど英語の語学力向上を目的に留学しました。その当時を振り返ると、今回の山西省への留学はとても満足のいく留学だったと感じます。二つの留学を比較して何が違ったのかを分析しようと思います。

### ・言語能力

まずは留学の一番の目的である言語能力です。ハンガリーにいた際も英語力は上がったと思いますが、中国でもかなり手ごたえを感じることができました。どの言語にも通じることだとは思いますが、最初の伸びはとても早いです。その為、比べる対象として良くないかもしれませんが、ハンガリーでの1年と中国での7ヵ月の上達度は同じに感じました。留学というと「話す」機会がたくさんあると思いますが実際にはそこまで多くありません。ましてや、中国の留学となると留学生同士でのコミュニケーションは基本

的に英語になってしまいます。また、ハンガリー留学の時も自分で友達を作り話すとき以外は特に話す機会はありませんでした。そのため、今回の留学は半年だけということもあり、積極的に自分から行動しました。具体的な学習方法は後ほど書きたいと思います。ハンガリーでは最初の2か月を無駄にしてしまったので、今回の留学では十分に中国での時間を有効に使うことができました。

#### ・生活

中国では中国人になりきろうと決めていました。具体的には中国人が食べているものを食べ、中国人が使っているものを使い、中国人が行っている場所に行きました。ハンガリーにいた時は、決まった食べものを食べ、学校-図書館-アパートを往復していた気がします。また、現地の言葉はわからないので自分は、ハンガリーにいる一人の外国人という感じでした。初めに、自分は食への好奇心が強いので毎日違うものを食べました。そうすることで、中国人が食べている物の味を知ることができ、日本では食べられないような物を口にすることができます。さらには、毎回料理を頼むときに料理名を発音しなくてはなりません。そのため、新しい漢字に出会い学習にもつながります。自分は例え、その料理が口に合わなくても中国人はこのような味を好むかと新しい知識を得られるような感じがします。その為、中国の食に関する知識はとても増えました。

また、中国ではインターネットによるサービスが日本よりも進んでいます。例えば、

・滴滴            タクシーサービス

・外卖            デリバリーサービス

・淘宝            インターネットショッピング

・微信支付      wechat 支払いサービス

などがあります。中国では老若男女問わず多くの人がこのようなサービスを頻繁に利用しています。もちろんこのようなサービスを使わずとしても、中国で生活はできますがとても不便です。また、サービスを通じて現代の中国の生活を知ることができます。さらには、このようなサービスは中国人の生活の一部として完全に浸透しているため中国人との会話はもちろん、授業の際、先生はこのような単語をよく使います。公共のバスにもたくさん乗りました。そこでは、中国人の意外な一面を見ることができました。身近なところに中国の生活を垣間見ることができます。

中国人との交流の機会も作りました。中国人に誘われて市内に出かけました。皆さんは外国人の友達をどこに連れていきますか？私は网吧（インターネットカフェ）に連れてかれました。席に案内されて何をやっていいかわからず友達に聞くと「好きなゲームないのか？ないなら俺のを見ていろ。」と言われました。このようなやり取りはすごく中国的で自分は思わず笑ってしまいました。中国ではインターネットゲーム、スマホのゲームはすごく有名です。また、中国人学生に暇なときは何をするのかと聞くと、たい

てい勉強かインターネットゲームです。これも中国での貴重な体験になりました。中国語にも入郷随俗 (ruxiangsuisu) ということわざがあります。「郷に入っては郷に従え」という意味です。今回の留学ではできるだけ中国人のように生活し、たくさんの現在の中国を知ることができました。

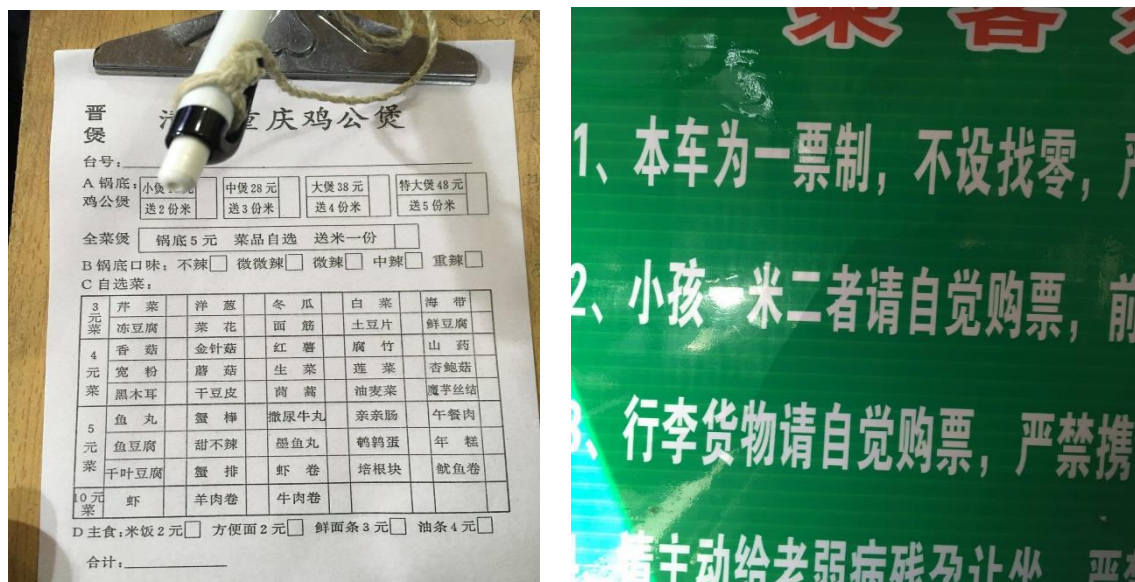


スーパーの麺コーナーです。様々な麺の種類があり中国らしいです。グラムで量り売りしてくれます。定期的にスーパーへ行き、気になる食材を買いました。

#### 勉強方法

まず自分の留学前の中国語はほぼゼロに等しいです。日本人なので漢字の理解はできますが、会話、リスニングは全くできませんでした。そこから半年ほどでHSK 5級に合格しました。言語能力を文字で伝えることは難しく、HSKも良い物差しではありません。6級は2番目に難しい級ですが、日本人は有利で会話の試験はありません。留学生の友

達のおしゃべり、中国での日常生活は問題ないといった程度です。人それぞれ、学習方法は違います。自分がどのように中国語を上達させたのかを授業内と授業外に分けて紹介させていただきます。



左 レストランでのメニュー

右 バスの中での注意書き

このような日常生活の中にたくさんの学習の機会が転がっているのも留学の魅力です。

### 授業内

授業中は辞書と欲張ることです。授業はもちろん中国語で行われるので、聞き取れない単語が多く出てきます。その単語を逐一、先生に確認しては授業が進みません。その為、自分は携帯の辞書アプリを片手に授業を聞いていました。わからない単語を聞くとすぐに調べる、それをその日の夜に復習するという流れでした。紙の辞書のほうが、良いかもしれませんが、なんせ先生の説明はどんどん続きますので授業内ではさっと調べられるものが良いと思います。また、授業中に出てくる単語はその授業だけでなく、その後も出てきます。2回目に出てきたときに理解してようやく身につきます。慣れてくると、先生の言っていることの95%くらいは理解できるようになります。また、わからない単語も少なくなってくるので、先生に直接聞いても問題ありません。ここで注意しなくてはいけないのは、先生の話す中国語と中国人学生や現地のローカルの人が話す中国語は全然違います。話す速度はもちろん、彼らが使う単語は全く違うので「できる！」と勘違いして現地の人にメンタルをやられるということはつきものだと思います。もう一つは欲張ることです。欲張るとは遠慮せず自分からガツガツ行くということです。

比較的、日本人は授業中静かな印象です。逆に外国人はひたすら話し続けているということもあります。基本的に授業では、生徒を特定して発言させる時は本文を読む時、練習問題を答えさせる時のみです。その為、自分で文を考えて実際に口に出す機会は自分から作り出さなくてはなりません。自分は少しでもわからない、あいまいな部分は逐一、先生に質問していました。また、授業とあまり関係ない内容でも積極的に質問しました。授業は皆のものですが、自分も生徒の一人なので、欲張って授業を受けるとよいと思います。そうでもしないと、すべての授業がリスニングの授業になってしまいます。



二胡の授業です。  
中国の文化も体験できます。

#### 授業外

留学において授業はもちろんですが、授業外での自主学習がより重要になってきます。授業外での学習は復習と日常生活です。復習は授業で習った内容と聞き取れなかった単語の確認です。授業で出来る単語や文法は頭に残りやすいので、しっかり定着させます。日常生活では、積極的に現地の学生に声を掛けます。食堂、図書館、キャンパス内で暇そうな学生がいたら、会話をして連絡先などを交換します。少し大胆な気がしますが、逆に中国人学生も留学生との交流を求めているので断られることは一度もありません

でした。むしろ親切に自分の拙い中国語に付き合ってくれました。Wechat でのやり取りの際わからない表現、単語、メニューに載っている漢字などをひたすら調べて授業中や友達との会話で使っていくという流れでした。

留学に行ったからといって語学力が伸びるとは限りません。半年たってもほとんど進歩がない学生もかなりいました。授業に出ても、宿題をやっても上達するとは限りません。その為、授業内外でいかに自分から行動するのが、言語の向上につながると強く感じました。

## 2、山西省への留学の悪い点、良い点

### 悪い点

#### ・気候

山西省太原市は中国の北部よりの内陸に位置しているため、冬の寒さは厳しくなります。また、冬はたくさんの物を燃やして熱湯を作り室内を温めるため、空気が少し悪くなります。出国前に聞いていたほど、空気が悪くはなかったですが、空気が少し霞んでいました。太原市では雨がめったに降りません。その為、空気がかなり乾燥します。

#### ・食

自分は問題なかったですが、ほとんどが中華料理です。大学付近で西餐（中華料理以外）を探すのは日本ほど簡単ではありません。ましてや、日本料理となると高級レストランになってしまいます。中国の生活を体験するという意味では良いですが、慣れるまで大変です。基本的に中華料理は脂っこいのでさっぱりとした料理（蘭州ラーメン）などは重宝します。

### 良い点

#### ・費用

基本的に物価は日本よりもかなり安いです。また、食事も基本的 10 元（170 円ほど）で量も多いです。バスは基本（1～3 元）とかなり安いです。市内に遊びに行っても、どこでも基本的に安いので、生活費はかなり安く抑えることができます。今回の留学の費用はすべてアルバイトで貯めたお金でまかないましたが、学生でもまかなえる額だと思います。そのため、留学＝費用が 100 万以上と考える人いますが、山西省の留学ではかなり安くなります。その為、学生でも自分で何とかすることも可能です。

#### ・授業の質

自分がいた初級班 B クラスの先生方は本当に素晴らしい方々でした。総合の王先生を

はじめ、韓先生、刘先生の授業はただ単に教科書の内容を教えてくれるだけでなく、現代、古代の中国の変化や文化を混ぜて授業をしてくださいました。他のクラスの授業を出てみましたが、圧倒的に授業の質が良かったです。

#### ・国際性

山西省はあまり日本人の間では有名ではありません。そのため、日本人はほとんどおらず、中国語を勉強する環境としてはとても良いと思います。また、珍しい国からの留学生がたくさん来ています。立地の関係からか西アジアのウズベキスタン、トルクメニスタン、アフリカからはナイジェリア、コンゴ共和国、ブルキナファソなどの今まで出会ったことのない国籍の方と共に勉強することができました。おそらく、山西省でなかったら出会えない国際性豊かな出会いがありました。



帰国の際に見送りに来てくれた  
ナイジェリア人とメキシコ人との一枚

#### 3、留学のまとめ

今回の留学を通じて中国という国を自分の目でたくさん知ることができました。まだ、日本人にとって中国という国に悪い印象を持っている人が少しいと思います。しかし、それは思い込みや報道、ネットによる影響が大きかったです。実際の中国は、人が日本人より温かく、インターネットサービスの面ではかなり進んでいます。また、日本が現在推進しようとしている「キャッシュレス化」では日本の何歩も先を行っています。このような貴重な経験を今後他の人にどんどん発信していくのが自分の使命だと感じます。埼玉県に関してもクラブ活動などを通じて紹介できました。今後も中国語の学習を続け、もっと中国、日本の良い面を発信して関係が良くなることを願います。

#### 4、今月の中華料理

最後に紹介したい中華料理は火鍋（火鍋）です。火鍋は中国の一番代表的な料理といえるでしょう。何か、お祝い事やテストが終わると火鍋を食べに行きます。皆で鍋を囲

み、話しながら箸でつつきます。一般的に火鍋は2種類あり、銅火锅と普通の火锅があります。前者が伝統的な火鍋ですが現在は少なくなってきています。後者はいたるところにあります。値段も一人 70~90 元ほどでそこまで高くありません。入れる具材を紙に書いて注文する方式が多いです。中国に来た際、一度は食べるべき料理です。



左 伝統的な銅の火鍋。スープは1種類か2種類が定番

右 一般的な火鍋。スープは大体2種類。定番は清湯スープと麻辣スープ(激辛)です。